

[プレスリリース]

2018年9月
株式会社 サウザンブックス社

報道関係各位

目の見えない男の子、トマスにとっての色の世界を表現した
メキシコ生まれの美しい絵本『色についての黒い本・仮』を、
点字シート付きで翻訳出版を目指すクラウドファンディングを実施中!

世界の面白い本、本当に必要とされている本を、クラウドファンディングを活用して翻訳出版するサウザンブックス社（東京都渋谷区）は、目の見えない男の子トマスにとっての色の世界を表現したメキシコ生まれの美しい絵本『色についての黒い本・仮』（原題：El libro negro de los colores）の翻訳出版をめざすクラウドファンディングを、2018年10月31日（水）まで実施しております。

クラウドファンディングには一般販売予価よりお得な書籍コースのほか、出版記念イベントにご招待コース、日本語版書籍にお名前掲載コースなど、多彩なコースを設けております。
つきましては、本件のご紹介/取材のご検討の程を何卒よろしくお願いたします。

■ 書籍『色についての黒い本・仮』 (原題：El libro negro de los colores) について



『El libro negro de los colores』

著：Menena Cottin
絵：Rosana Faria
発行国：メキシコ
言語：スペイン語
発行年：2008年
ISBN：978-84-924121-9-8

目の見えない子が感じている豊かな世界を描く、
メキシコ生まれの真っ黒な美しい絵本

『色についての黒い本・仮』（原題：El libro negro de los colores）はメキシコ生まれの美しい絵本。真っ黒な紙に銀色の文字で綴られているのは、目の見えない男の子トマスが感じている色の世界。その全ページには、光沢のある透明なインクによって、浮きでているイラストと、点字のように書かれた文章が施されています。

味や手触りとして語られる黄色、痛みと結びついている赤、音やにおいにたとえられる茶色。トマスにとっての青は、晴れた空を見上げてお日さまがほおに当たっているときの温かさ。目の不自由な人にとっての色、それは決して認知できないものではなく、五感すべてを使って感じとっているものなのです。

また、日本版を制作するにおいては、この綺麗な絵本が、視覚の状態にかかわらず、多くの子どもにとって、

他者の世界との架け橋として機能してくれるように、スペイン語の原書にはない「日本語の点字シート」を付録として付ける予定です。

著：Menena Cottin（メネナ・コティン）

1950年カラカス生まれ。グラフィックアートをカラカスのニューマン・デザイン学校で学ぶ。後にニューヨークのパーソン・デザイン・スクールで児童書の書き方とイラストを、プラット・インスティテュートでアニメーションを学び、児童書の制作を始める。著書の El libro negro de los colores（メキシコ、テコロテ社、2006年）は14言語に訳されている（2007年・ボローニャ・ブックフェアでニューホライズン部門賞受賞、2008年・フランスの市民文学賞受賞、2008年・ニューヨークタイムズのレビュー児童書10冊に選ばれる）。20冊以上の児童書の作家、イラストレーター、デザイナーであり、そのほとんどは2006～2011年においてメキシコのテコロテ社で刊行されたものである。

絵：Rosana Faria（ロサナ・ファリア）

1963年、ベネズエラ生まれ。ニューマン・デザイン学校でグラフィックアートを学ぶ。20冊以上の児童書のイラストを描いているが、“さわる事ができる”本の描画こそが彼女の大きな挑戦であることは間違いない。カラカス在住。

■目で見ることなく色を知る、感じる。

絵本を通じて、大人も子供も一緒に、世界の豊かさの意味を考えたい。

（プロジェクト発起人・有限会社イスパニカ代表 本橋 祈より）

絵本を読む「スペイン語多読の会」でこの本に出会ったとき、なんて美しい本だろう、と思いました。真っ黒な紙に透明なインクの隆起によって描かれているイラストは繊細かつ写実的であり、みずみずしいイチゴの絵から平山和子さんの『くだもの』（福音館書店、1981）を連想しました。そして、銀色の文字で印刷された文章を読み進めて、この絵本が伝えていること、この絵本がもっている使命のようなものにも、軽い衝撃を受けました。

シンプルなスペイン語で書かれていたのは、目の見えないトマスという男の子にとっての色の世界でした。味や手触りとして語られる黄色、痛みと結びついている赤、音やにおいにたとえられる茶色。トマスにとっての青は、晴れた空を見上げてお日さまがほおに当たっているときの温かさのことなのです。

目の不自由な人にとっての色、それは決して認知できないものではなく、むしろトマスは、五感すべてを使って色を感じています。目で見ることなく、色を知る。感じる。認識する。そのことが、この絵本を読むことによって、小さな子どもにも伝わる仕組みになっています。

目が見えないということは色が分からないということではない。目の見えない人たちの世界の豊かさが、この絵本の文章とイラストによって、日本の多くの子どもたちに知ってもらえたとしたら、それはなんて素敵なことだろうと思いました。

子どもの世界を広げるのに大きな助けとなる絵本。メキシコで生まれたこの絵本を日本語で翻訳出版することで、日本の子どもたちの世界を広げたい。世界の豊かさの意味を子どもたちが考える機会になってほしい。そんな思いで、このプロジェクトを立ち上げました。

ぜひ、一緒にこの美しい本の日本語版を作りましょう。
どうぞご支援くださいますようお願い申し上げます！

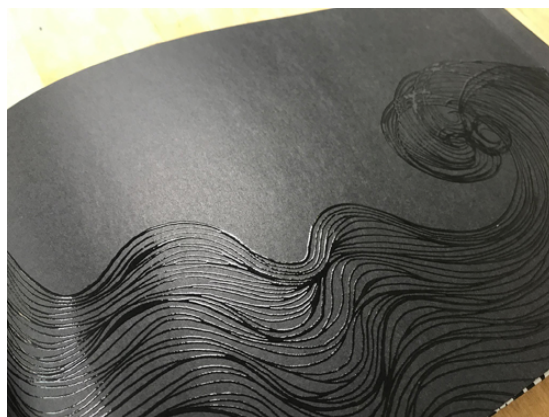


発起人：有限会社イスパニカ代表 本橋 祈（もとはし いのり）

教育系の出版社勤務を経て、現在は「日本とスペイン語圏との架け橋」を謳ってスペイン語教育などを行う有限会社イスパニカ代表。3人の子どもの母親。小さいころの思い出の翻訳絵本は、父親が買ってくれた『しろいうさぎとくろいうさぎ』（ガース・ウィリアムズ、松岡享子訳、福音館書店）。著書に、『基礎からレッスンはじめてのスペイン語』（ナツメ社、2017）、『ひとりで学べるスペイン語会話』（共著、高橋書店、2018）。

<http://www.hispanica.org/>

■ 中ページのサンプル



■ クラウドファンディングのコースについて

- ・クラウドファンディング特価の書籍1冊コース
- ・電子書籍コース
- ・出版イベントに参加コース
- ・書籍の最後のページにご自身のお名前を掲載するコース（すべての本に印刷されます）

などなど、クラウドファンディング期間中のみの、お得で楽しいコースが満載です！
詳細は、クラウドファンディングのWEBサイトもしくは同梱のチラシをご参照ください。
<https://greenfunding.jp/thousandsofbooks/projects/2416>



■ サウザンブックスと支援金の使途について

サウザンブックスは、言葉や文化の壁を越え、読者の心に響く1冊をクラウドファンディングを活用して翻訳出版しています。クラウドファンディングを活用する理由の1つには、翻訳出版には、原書の著作権取得費用や出版エージェント手数料などが必要で、日本語の本を出版するよりも制作費がかかり、そのため、売れ筋のタイトル以外は発行しづらいという状況があるためです。このプロジェクトの支援金については、「著作権購入費」「出版エージェント費用」「翻訳費」「編集・デザイン・DTP費」「印刷・製本費」「発送・流通費」など、本の制作からお届けにかかる費用一式に使用させていただきます。

掲載や取材に関するお問い合わせ先：

株式会社サウザンブックス社

担当：古賀・安部

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2丁目30-4

TEL：03-6869-9395 FAX：03-3379-9802

E-mail：info@thousandsofbooks.jp

URL：<http://thousandsofbooks.jp>